八王子市立第七中学校「平成１８年度授業改善推進プラン」

（様式1）

［八王子教育委員会教育目標］
「あふれる元気」（健康な心身・活力）
「かがやく心」（豊かな知性と感性・個性）
「仲間とともに」（協調性・社会性）
「はばたけ未来へ」（意欲・積極性）
の育成に向けた教育を推進する

教育目標

教育は人間性豊かな平和的な国家及び社会の形成者として、心身ともに健康的な、国際社会に生きる日本人の育成を目指して行なわなければならない。このような考えに立ち、学校教育全体を通して、自らの生き方を考え、的確に判断する力と、他と協調しながら自律的に行動する力の育成を目指し、自主自律の精神を校訓とし、次の教育目標を定め、その具現化に努める。

（教育目標）
○自己啓発力をもち、創造性に富む人間
○規範意識をもち、社会貢献ができる人間
○思いやりの心をもち、感受性豊かな人間

1　地域の実態

西八王子商店街や閑静な住宅地を学区に持つ。保護者は学校活動に関心を持ち、協力的である。地域住民は学校公開、保護者会、学校行事、月１回の地域パトロールなどに積極的に参加し、学校と連携して子どもを育てようとする姿勢がある。

2　地域・保護者の期待や願い

子どもの個性を大切にし、能力を引き出してくれる学校を望んでいる。学校公開や行事には多くの地域・保護者の方が参観する。学校に対する関心が高く、協力を惜しまない。また、同時に要望も多い。進学に関してはほぼ１００％高校進学を希望している。

3　期待される子ども像

・自ら課題を見つけ、積極的に解決を図れる子ども。
・礼節を大切にし、しっかり挨拶ができる子ども。
・不正に目をつぶらず、正しい判断と行動ができる子ども。
・豊かな心を持ち、誠実な取り組みができる子ども。

本年度本校における学力向上のための重点

1　問題解決的な学習や体験的な学習などを積極的に取り入れ、授業改善プランを基に動機付けや学習過程を工夫して学習に意欲的に取り組む態度の育成を図る。
2　個別指導やグループ別の指導、習熟の程度に応じた指導方法や体制を工夫し、生徒一人一人の個性を生かした指導を充実するとともに、基礎的・基本的内容の確実な習得を図る。
3　目標に準拠した生徒の学習到達度をさらに評価する方法を工夫し、学習指導の充実を図る。
4　選択教科の学習においては補充的、発展的内容などを幅広く開設するするとともに、課題解決的な学習などにより、基礎的、基本的内容のさらなる定着を図るとともに、生徒の興味・関心に応じて個性伸張をを図る。
5　社会科の授業においては、ティームティーチングを実施し、課題追究的な学習や討論の学習を取り入れ、思考力、判断力や表現力の育成に努める。また、不登校過配教員を加え、個に応じた学習を充実させる。

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果（東京都実施、中学校のみ）等を踏まえて

（学校の特色としてさらに伸ばしたいこと）

地域・家庭が安定しており、平均的に学力は高いものがある。授業は意欲的で、真面目な落ち着いた取り組みが定着している。その取り組みが都や市の平均値よりよかった要因と考えられる。教員は生徒指導に熱心である。生徒とのつながりを大切にし、きめ細かい指導に心掛けている。特に、基本的な生活習慣の確立のため挨拶の徹底を実行している。生徒による授業評価を取り入れ、授業改善と学力の向上を図っている。本校では早くから指導と評価の一体化を目指し早くから取り組んできた。これらをさらに充実させ、より定着を図る。

（学校の課題として取り組むこと）

自ら課題を把握する、設定する、解決する姿勢に課題を持つ。教科及び学年間で情報の交換を行ない、協力と連携を深め、指導方法の充実を図る。特別に支援を要する生徒に対しては研修会を開いて取り組んでいる。また、小中との連携を 築き生かす。日々において生徒を引き付ける授業を行ない、学習に対する興味・関心を高め、目標と過程を大切にする教育を目指す。全校を挙げて「学ぶ姿勢」の確立を図る 。真摯な態度で生活に取り組み、自分を鍛え伸ばすという人格の形成を目指す。

（平成１８年度中に実施する具体的な取り組み）

・特別に支援する生徒に対しての指導法を研修会で検討する。
・基礎・基本の定着を図るため、2学期に全校を挙げて漢字コンクール、スペリングコンテスト、計算コンテストを実施。到達度９０％程度の生徒は全校朝会で表彰する。教科ごとに設定された到達度に達しない生徒についてはその数値が達成されるまで補習と追試を行なう。
・目標に準拠した学習到達度を正確に出すために、観点別により多くの判定資料を取り揃える。学習目標と評価基準・方法を明確にし、特に評価については各学年毎学期１回評価ガイダンスを行なう。
・社会科の授業はティームティーチングを行ない、基礎・基本の習得だけでなく、グループ学習や課題学習の取り組みを実施。レポートにまとめたり発表を行なう。

（平成１９年度教育課程に向けて参考にすること）

・特別に支援する生徒に対しての、検討した指導法を実際行ない、さらに学年を超えて、有効な有益な方法を導く。
・よりいっそう、基礎・基本の定着を図るため漢字コンクール、スペリングコンテスト、計算コンテストを盛り上げ充実させる。生徒全員に達成感を味わわせる。
・到達度の低い生徒については主要3科目の教科担当と学年が連携し取り組む。
・生活指導との連携をより深め、学ぶ姿勢を養う。聞く力、書く力、発言する力を身につけ、いっそうの人格形成を推し進める。
・生徒一人一人の状況を把握し伸ばすために、情報交換を密にして、ティームティーチングやアシスタントティーチャーを取り入れ、きめ細かい指導を推し進める。